J-WING
日本航空ユニオン宣伝ニュース
No 270（16－08）
2025 年 2 月　14 日
Tel:03-5756-8690　URL http://www.jlu.co.jp　e-mail honbu@jlu.co.jp

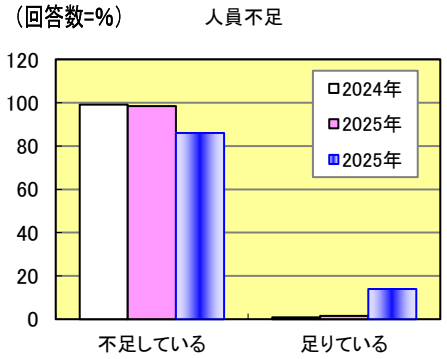
25 春闘「整備安全アンケート」集計結果①

労働密度が高まる整備の現状

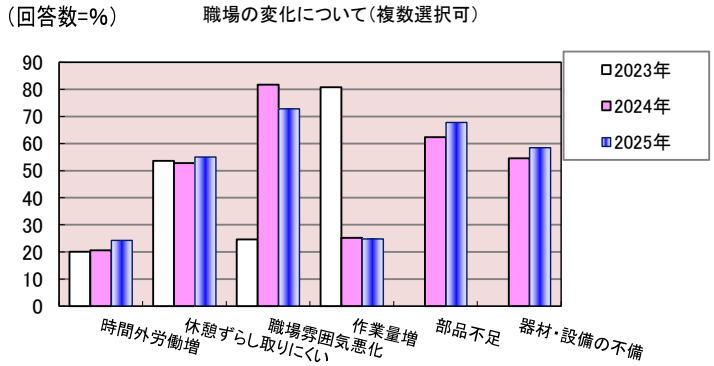
今年 1 月に実施した「整備連 整備安全アンケート」の集計結果の報告です。回収枚数は 202 で、ライン整備 154、ドック整備 35、スタッフ 12 となり、勤務は 2 交代 139 人、3 交代 57 人となっています。このアンケートは ANA グループや国内他社にも取り組みをお願いしていますが、今回は回答がありませんでした。アンケートの回答は JALEC 社員も JAL 系に含まれるため 20 代、30 代から 3 件の回答がありました。外航は内容を変えて違う時期に集計し、全体像は整備連で分析します。

□ この 1 年間の職場の変化について

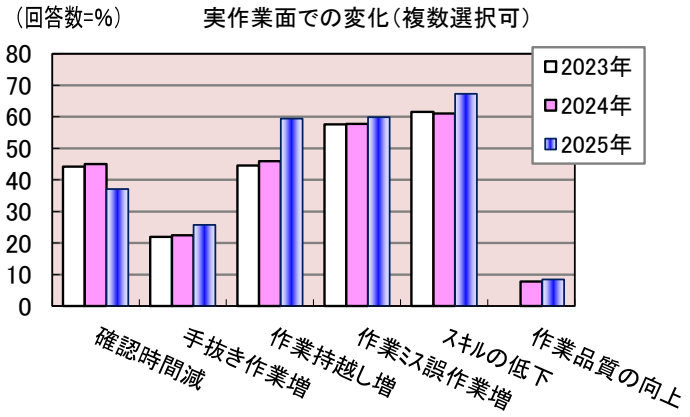
■ 職場の人員については、「不足している」が昨年の 98.5%から 86.1%に若干下がりました。それでも高い値には変わりません。最近では「人員はいるもの仕事ができる人が減っている」という声を聞くようになりました。人員不足に加えて、人財育成が進んでいないことも問題になっています。



■ 職場の変化について、選択項目を選ぶ設問では、昨年から「部品不足」「器材・設備の不備」を追加しました。両項目ともに値が増えています。器材・設備の不備については、組合からも伝える機会があるので、報告をお待ちしています。

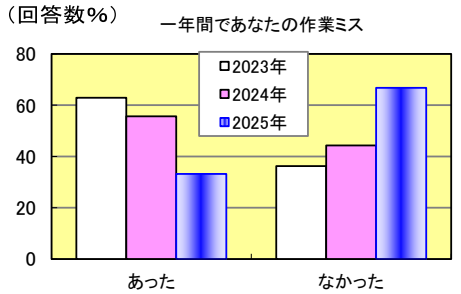


■ 職場の実作業面での変化については、「スキルの低下を訴える声がさらに増えました。「作業持越し増」も昨年までと比較して増えています。部品不足、人員不足で修理したくてもできないことが多くなっています。昨年から「作業品質の向上」も聞いていますが、9.4%という低い結果となりました。

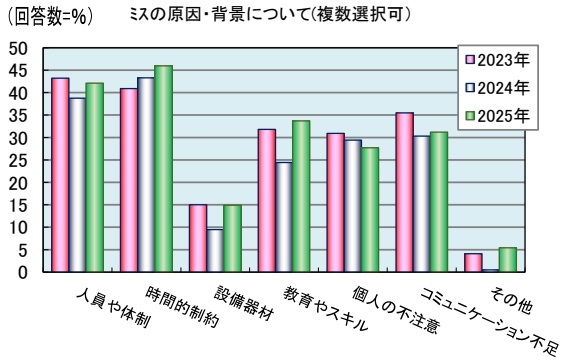


□ この 1 年間の作業ミスについて

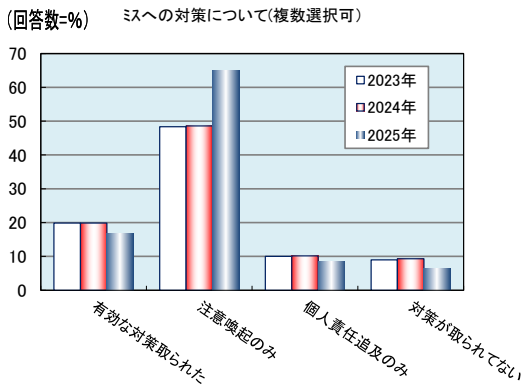
■ 自らの作業ミスについても聞いています。ここ 3 年を見ると改善傾向にあります。ミスの内容にはログや整備記録のミス、MEL 適用ミスなどが上がっています。他には、「忘れ物」というコメントがありました。iPad を機内に置き忘れるミスも、このアンケート以外で聞くことがあるので注意が必要でしょう。



■ ミスの原因について比較してみると、「時間的制約」が今年も増えて最多になりました。その他では「指示書の不備」「間接の支援が少ない」というコメントの一方で、間接から「現場の取扱いが悪く、器材が壊れたことの報告がないなか対応を迫られた」といった回答もありました。



■ ミスへの対策については、3 年間の経過を見ています。「注意喚起のみ」が今年も高い割合となり 64.9%。対策が増えすぎることも問題になるので難しいところです。一方で「有効な対策が取られた」は若干減少しました。前項の記述欄に「エラーは減らせるけど無くならない。システムを変えてほしい」という意見がありました。ミスを減らす対策が必要ということでしょう。

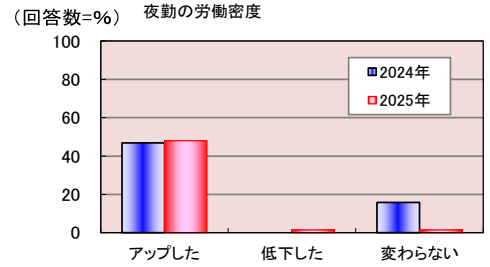


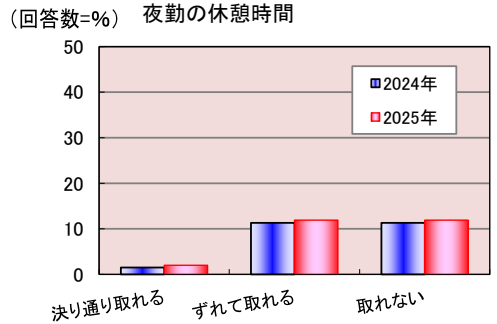
□ 夜勤の実態について

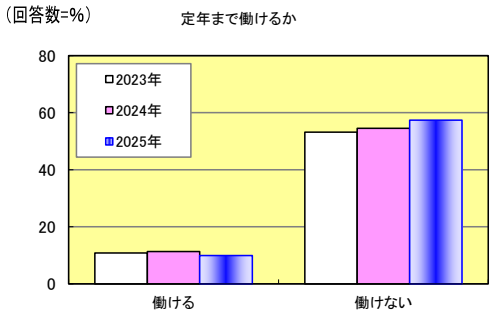
■ 恒常的に夜勤を行っている人に質問をしています。その中で 48%が労働密度が「アップした」と回答しました。「変わらない」がほとんどいないことから、労働密度は高くなっているということでしょう。

休憩時間に関しても、昨年と同じ傾向です。「決まり通り取れる」はほとんどいません。そもそもラインでは休憩時間に決まりはなく、夜勤では 60 分を分割して取るように言われていますが、その 60 分も取れない状況が続いています。引き続き休憩時間の確保と疲労が貯まらない勤務形態を求めていきます。

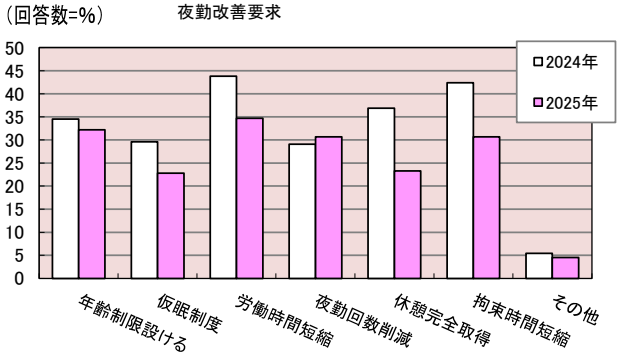
「定年まで働けるか」への回答を 3 年間で比較しています。気力、体力、健康面から「働けない」と回答した方が 57.4%になっています。組合員の平均年齢が 55 歳を超えており、再雇用者の組合員も増えています。この設問自体の検討も必要ですが、夜勤の労働密度を少しでも下げて再雇用者も働きやすい労働環境にしていくことが大事です。







■ 夜勤の改善要求については、全体的に改善要求の回答数が減っていますが、「労働時間短縮」「拘束時間短縮」と時短を求める回答が目立ちます。「年齢制限を設ける」は、60 歳以降の再雇用者は、夜勤のない勤務にしてほしいということでしょう。



夜勤の「定年まで働けない」理由の記述内容

◆現行夜勤職場で定年まで働けないと答えた 116 件(昨年 111 件)中、111 件(昨年 103 件)の理由の記述がありました。今年も一番多いのは、「体力が持たない」といった健康上の理由です。「労働密度」や「休憩時間」への回答もありました。

【具体的記述内容抜粋】

- 体力的にも精神的にも耐えられない。賃金が安すぎる。
- 夜勤が忙しく休日に何もやる気が起きない。
- そもそも人員不足しているにもかかわらずカスタマーに手を広げ過ぎ。
- 明らかに稼働強化になっている。
- 60 過ぎて休憩なしで夜通し野外での重労働は出来ない。
- 休憩も満足に取れないので体が持たない
- 勤務前の仮眠の質が落ちてきて、忙しい夜勤をやれる体力がないし、命を削ることになる。
- 必要最低限の休憩時間が取れない。機材稼働率が高く、作業時間が充分に確保できない。

夜勤の「改善要求（その他）」の記述内容

◆夜勤改善要求のその他の記述欄には、15 件の回答がありました。その中で 5 件は夜勤手当の増額など賃金に関わるものです。他には「十分な人員と余裕のある機材スケジュールを」「整備体制の抜本的見直し」「休憩時間取れないなら、休憩時間を 30 分にしてもらいたい。タダ働きの時間が増えるだけで損をしている」など。労基法上 8 時間以上の労働時間だと休憩を 1 時間与えなければいけません。タダ働きは違法です。整備本部/JALEC として対応が求められます。